

現代仮名つかい版

金とナメスヤ 童謡全集 5

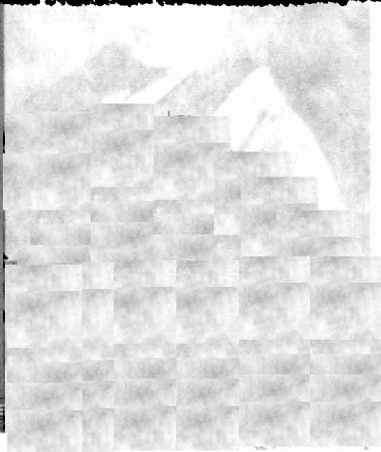
さみしい王女・上

工業学院図書館
藏书章

正平侯名つかい版

金みすん
章論全集
5

さみしい王女



金子みすゞ●かねこみすず／本名金子テル。明治36(1903)年、山口県大津郡仙崎村(今の長門市)に生まれる。大正末期から昭和の初期にかけて、すぐれた童謡詩を発表し、西條八十に「若き童謡詩人の中の巨星」とまで称賛されながら、昭和5(1930)年、26歳の若さで世を去った。童謡詩人・矢崎節夫の長年の努力によって512編の遺稿がみつきり、没後50余年を経て、全集として出版された。平成15(2003)年4月には、みすゞ生誕100年を記念して、長門市立金子みすゞ記念館が開館。

金子みすゞ童謡全集⑤さみしい王女・上

著者——金子みすゞ

監修——矢崎節夫

発行日——2004年3月10日 第1刷

発行者——大村祐子

発行所——JULA出版局

〒171-0033 東京都豊島区高田3-3-22 ☎03-3200-7795

印刷——新日本印刷株式会社

製本——小高製本工業株式会社

編集制作——富田百合子・小倉佳子

装画——森川百合香

装丁——三上眞佐子

*作品の無断転載を禁じます。連絡先:金子みすゞ著作保存会(JULA出版局内)

*落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

さみしい王女・上



目次

世界中の王様

雀すずめ.....10

つくる.....12

世界中の王様せかいじゅうおうさま.....14

時のお爺さんじい.....16

人形の木.....18

ねがい.....20

橙だいだい畑ばたけ.....22

魚市場.....24

みえない星.....28

トランプのお家.....30

夏.....32

夏越まつりなごし.....34

雨の五穀祭 ^{ごこくまつり}	36
夏の宵 ^{よい}	38
ひよどり越 ^{こえ}	40
啞蟬 ^{おうしぜみ}	42
山の子の夢 ^{ゆめ}	44
ちいさなお里.....	46
象の鼻.....	48
文字焼 ^{もじや} き.....	50
海を歩 ^{ある} く母さま.....	52
舟 ^{ふね} の唄 ^{うた}	54
蟬 ^{せみ} しぐれ.....	56
お月さんとねえや.....	58
帆 ^は	60

すすき
芒とお日さま

さみしい王女……………64

林檎畑……………66
りんごばたけ

はつ秋……………68

踏切……………70
ふみきり

曼珠沙華……………72
ひがんばん

小さい女の子と男の子……………74

秋は一夜に……………76

落葉のカルタ……………78

爪……………80
つめ

紙鉄砲……………84
かみでっぽう

お勘定……………86
かんじょう

こわれ帽子……………88
しやっぴ

らくがき	90
万倍	92
ねんねの汽車	94
子供と潜水夫と月と	96
遠い火事	98
うらない	100
芒とお日さま	102
みんなを好きに	104
水と影	106
井戸ばたで	108
大きな手籠	112
花のお使い	114
納屋	116

橙だいだいの花

幕けかたち……………122

叱しとられる兄さん……………124

私の髪かみの……………126

硝子がらすと文字……………128

お月さん……………130

初はつあられ……………132

冬の星……………134

白しろい帽子……………136

店の出来事……………138

大晦日おおみそかと元日がんじつ……………140

去年……………142

硝子がらすのなか……………144

朝蜘蛛 あさぐも	146
私 わたし	150
かたばみ	152
まち	154
貝と月	156
絹の帆 きぬほ	158
自動車	160
田舎の町と飛行機 いなか	162
桃の花びら もも	164
梨の芯 なししん	166
額のなか かく	168
橙の花 だいだい	170
茶碗とお箸 ちやわん はし	172

編集注記・解題／174

みずゞ体験——矢崎節夫／178

世界中の王様



雀すずめ

ときどき私わたしはおもうのよ。

雀すずめに御馳走ごちそうしてやって、

みんな馴ならして名をつけて、

肩かたやお掌ててにとまらせて、

よそへあそびに行くことを。

けれどもじきに忘^{わす}れるの。

だって、遊びはたくさんで、

雀のことなんか忘れるの。

思い出すのは夜だもの、

雀のいない夜だもの。

いつも私のおもうこと、

もしか雀が知^しつてたら、

待ち^まほけばつかししてるでしょ。

わたし、ほんとにわるい子よ。

つくる

小鳥は
藁^{わら}で

その巣^すをつくる。

その藁^{わら}

その藁

たあれがつくる。

石屋^{いしや}は

石で

お墓^{はか}をつくる。

その石

その石

たあれがつくる。

わたしは

砂^{すな}で

箱庭^{はこにわ}をつくる。

その砂

その砂

たあれがつくる。

世界中の王様

世界中の王様をよせて、

「お天気ですよ。」と云ってあげよう。

王様の御殿はひろいから、

どの王様も知らないだろう。

こんなお空を知らないだろう。